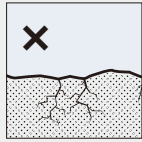


施工法

下地のチェックと適合性

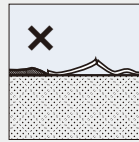
床材の施工は、床下地の状況に大きく左右されます。
 床下地の種類・条件によって、施工方法・接着剤の種類が異なる場合があります。
 施工前の床下地のチェックは、新設・既設を問わず床施工にとって重要なポイントとなります。

モルタル・コンクリート下地の施工前チェック



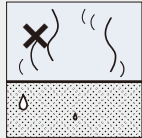
平滑度

床面を平滑に仕上げるためには、コテムラ、凹凸、クラックの有無のチェックが必要です。



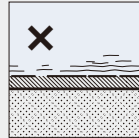
汚れ

床面の接着不良や着色・汚染を防ぐためには、溶剤や塗料などが付着していないかチェックが必要です。



乾燥度

床面の接着不良や剥離を防ぐためには、下地の湿気・残留水分などのチェックが必要です。(含水率8%以下※)



表面強度

床面の接着不良を起こさないためには、下地表面のレイタンスなどのチェックが必要です。

※下地含水率測定判断の目安

高周波静電容量式水分計 HI-520、HI-520-2 (株) ケット科学研究所製) を使用した場合、下地含水率の目安は右記のとおりです。

設定条件		下地:コンクリート・モルタル・セルフレベリングの場合	下地:コンクリートの場合
		Dモード(ダイレクトモード)、厚さ40mm、温度AUTO	コンクリートモード、厚さ40mm、温度AUTO
従来の	8%以下	440未満	4.0 未満
下地水分指標	10%以下	620未満	5.0 未満

その他の下地の施工前チェック

- 木質下地…………… たわみ、反り、目地の段差・開きがないか。
- 金属下地…………… さびが発生していないか、また防錆処理が施されている場合はその塗料の種類は何か。
- セルフレベリング下地 …… レイタンスはないか、また表面強度の度合い。(石膏系はセメント系と比べて強度が弱いため注意が必要)
- テラゾー下地…………… 破損、汚れ、ワックスの付着、不陸のチェック。
- 塩ビ床下地…………… 硬さ、平滑度、汚れ、ワックスの付着、破損のチェック。(クッションフロアや、表面にエンボスがある場合は施工不可)

床材と下地の適合性

商品名	下地 (○:施工可能 ×:施工不可)						
	モルタル コンクリート	塩ビ床 ※1	タイル ※2	合板 ※3	鉄板 ※4	床暖房	
						コンクリート モルタル埋設方式	合板捨貼り工法 (ガス温水マット方式など)
アンビانس	○	×	×	○	×	×	×
コネクションコーロン	○	○	○	○※5	○	×	×
ニューテッセラコーロン	○	○	○	○※5	○	○	○
アルトロセーフティフロア	○	×	○	○	○	○	×
アルトロアクエリアス	○	×	○	○	○	○	×
レックスコート	○	○	○	○※6	○	○※7	○※7
レイジャー4.0	○	○	○	○※6	○	○※7	○※7
カルムパッソ	○	○	○	○	○	○※7	○※7
ノラプラン	○	×	×	○	×	×	×
ノラメント	○	×	×	○	×	×	×
スポールゴムタイル	○	×	×	○	○	×	×
ファストラ	○	○	○	○	○	×	×

- ※1 既存床の汚れ・ワックスは完全に除去してください。また、下地に完全に接着して表面が平滑になるよう施工してください。なお、既存床がクッションフロアや表面にエンボスがある場合は施工できません。
- ※2 タイル表面についたワックスや汚れは完全に除去し、下地調整剤で表面処理し平滑に仕上げてください。
- ※3 根太のピッチが30cm以内で、JAS耐水1類合板12mm厚×2枚の強度があるようにしてください。
- ※4 さびや汚れなどは完全に除去してエポキシ樹脂系接着剤(スポールゴムタイルはウレタン樹脂系接着剤)を使用してください。なお、防錆塗料の種類によっては接着不良の原因となりますので事前に確認してください。(ファストラは置敷き嵌合タイルのため接着剤は不要です。)
- ※5 根太を組む場合は、※3を厳守してください。下地のたわみが原因で、床材の層間剥離などを引き起こす可能性があります。キャスター走行の激しい場所などでは、特に注意してください。
- ※6 鋼製材下地の場合の合板は、JAS耐水1類合板12mm+15mm厚各1枚もしくは、15mm厚×2枚の強度があるようにしてください。
- ※7 レックスコート、レイジャー4.0、カルムパッソは長時間放熱の妨げになるもの(ふとん・カーペットなど)を置くと変色するおそれがありますのでご注意ください。

接着剤の選定と施工方法

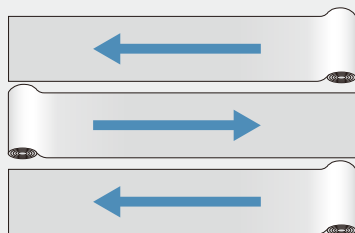
シート床材

施工方法 商品名	標準	耐湿	耐水(耐熱)	床暖房		方向性 (下図参照)
	全面接着施工 (目地溶接)	全面接着施工 (目地溶接)	全面接着施工 (目地溶接)	モルタル埋設方式	合板捨貼り工法 (ガス温水マット方式など)	
				全面接着施工 (目地溶接)	全面接着施工 (目地溶接)	
アンビانس	SA-901 ※1	SU-502	SU-502 または SE-103			方向性なし
コネクションコーロン	SA-901 ※2	SU-502	SU-502 または SE-103			①
ニューテッセラコーロン	S-235P ※2	SU-502	SU-502 または SE-103	SU-502 または SE-103	SU-502 または SE-103	①
アルトロセーフティフロア アルトロアクエアース	SU-502 または SE-103	SU-502 または SE-103	SU-502 または SE-103	SU-502 または SE-103		①
レックスコート	SA-901	SU-502	SU-502 または SE-103	SU-502 または SE-103	SU-502 または SE-103	②
レイジャー4.0 カルムパツソ	SA-901 ※1	SU-502	SU-502 または SE-103	SU-502 または SE-103	SU-502 または SE-103	②
ノラブラン	SA-901					②

※1 病院・高齢者施設の居室などで双輪キャスター式ベッドの使用が想定される場合は、SU-502またはSE-103を使用して施工してください。

※2 シートのはがれを防ぐため、目地溶接ができない端部(壁際や階段踏面など)はSU-502またはSE-103を使用して施工してください。

① リバース施工をしてください。



※アルトロセーフティフロア、アルトロアクエアースを施工の際、骨材密度に差がある場合は隣合わせのシートの骨材密度をできるだけ合わせてください。

② 同一方向で施工してください。



※レックスコート、レイジャー4.0の木目柄はシート両端部(ミリ部分)の板幅がカタログ記載寸法より短い場合がありますので、割付の際はご注意ください。

※カルムパツソはシート両端部(ミリ部分)を必ずカットして使用してください。

※床暖房下地における施工はお問い合わせください。

※使用する接着剤は所定のオープンタイムを厳守してください。速乾接着剤は、いかなる場合も使用しないでください。

⚠ 専用接着剤には有機溶剤を含む商品があります。施工前に必ず商品に貼付のラベルやSDS等に記載の注意事項をお読みのうえ、正しく安全に施工してください。

ノラゴムタイル

施工方法 商品名	標準
	全面接着施工
ノラメント	SU-502

※ノラメントの自動車整備場における施工はお問い合わせください。

※使用する接着剤は所定のオープンタイムを厳守してください。速乾接着剤は、いかなる場合も使用しないでください。

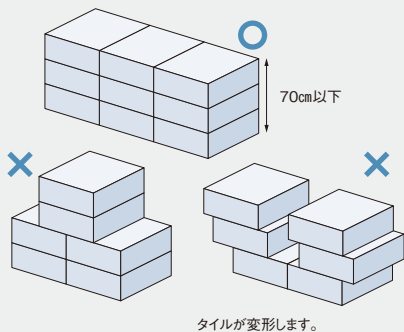
⚠ 専用接着剤には有機溶剤を含む商品があります。施工前に必ず商品に貼付のラベルやSDS等に記載の注意事項をお読みのうえ、正しく安全に施工してください。

施工法

ゴムタイル・嵌合型置敷きビニル床タイル

【施工の前に…】

- 乱雑な積み込み、積み降ろしはしないでください。床材を落としたり、放り投げたりした時の衝撃は床材破損の原因となります。冬期は特に注意してください。
- 保管は梱包のまま、平坦な場所に70cm以下の高さで積み重ねて保管します。図のように積み重ねがずれていると変形するおそれがあります。また、タイルが倒れて人災事故や器物の破損の原因となる場合があります。



- タイル床材は雨に濡れる場所で保管したり、冬場の屋外放置はしないでください。現場では屋内の指定場所に保管してください。
- 未使用のタイルの保管場所と、施工場所の温度差が大きく異なる場合、タイルの寸法安定性を著しく損なうため、必ず施工場所と同程度の温度の場所で保管してください。
- 施工時は周囲の温度を15°C以上に保つようにしてください。13°C以下になると床材が硬くなり貼り込みやカット作業がしにくくなります。
- 接着剤を使用する時は部屋の換気を十分に行ってください。

【下地のチェック】

タイルの施工は、床下地の状況に大きく左右されます。床下地の種類・条件によって、施工方法・接着剤の種類が異なる場合があります。(P.73～74参照)

【各商品についての注意事項】

ノラメント

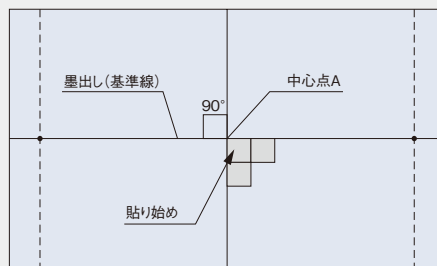
- 自動車整備場の施工についてはお問い合わせください。

ファストラ

- 壁際や入隅部分には5mm程度のクリアランスを確保してください。
- GTI MAXのスロープ材(アクセスコネクト・コーナーコネクト)を使用する場合、床下地面にウレタン樹脂系接着剤を塗布して入念に圧着し、固定してください。

1. 割付・墨出し

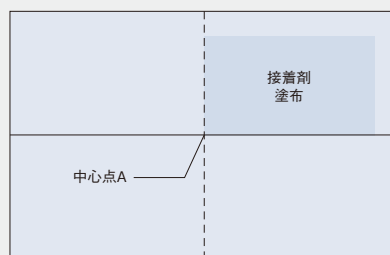
窓際、出入り口、柱まわりなどの納まりを検討のうえ、タイルの貼り出し墨の設定を行います。



2. 接着剤塗布

接着剤の塗布は中心点Aより行ないます。接着剤の可使用時間や作業スピードを考慮し、所定のクシ目ゴテで時間内に貼り終える部分のみ接着剤を塗布してください。壁際は、タイル2枚分を残して塗布してください。

- ※ファストラは置敷きのため接着剤塗布は不要です。
- ※接着剤は必ず指定のものをご使用ください。また、標準使用量・オープンタイムは厳守してください。



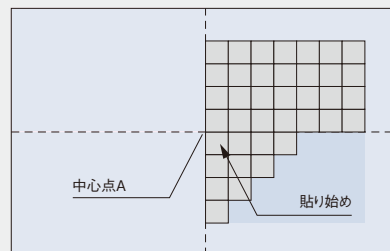
- ⚠ 専用接着剤には有機溶剤を含む商品があります。施工前に必ず商品に貼付のラベルやSDS等に記載の注意事項をお読みのうえ、正しく安全に施工してください。

3. 貼り付け

① ゴムタイル

接着剤のオープンタイムを取ってから、基準線に添って壁際に向かってタイルを貼り込みます。この時目地ズレがないよう十分注意してください。最後に壁際のタイルを貼り込みます。壁・幅木との取合、ソフト幅木取り付けの有無を考慮して丁寧に裁断・貼り込みを行ってください。

- ※ノラメントは裏面のマークの方向と並べる方向が一致するようにしてください。



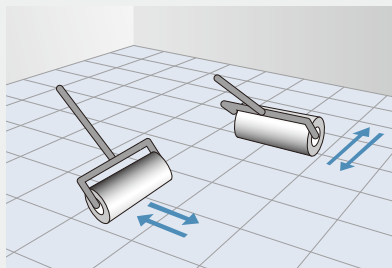
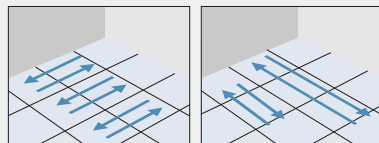
② 嵌合型置敷きビニル床タイル

置敷き施工のため、隣り合ったタイルの方向性を統一させて、ゴムハンマーなどを使用して嵌合部を結合させながら施工してください。

- ※ファストラGTI MAXは裏面のマークの方向と並べる方向が一致するようにしてください。
- ※重量物の走行や歩行頻度が高い場所、窓際など直射日光の当たる場所に施工する場合には、床タイルの嵌合部分に両面テープ(幅50mm、厚さ0.25mm程度)を使用して施工してください。

4. 圧着

ローラーにて転圧し、塗布した接着剤のクシ目の糊山をつぶしてください。タイルと下地をしっかり接着させるため、ローラーがけは一方だけだけでなく縦横に十分転圧してください。特に壁際などの周辺部はハンドローラーで入念に圧着してください。



5. 引渡前のメンテナンス

ノラメントはP.79～82「メンテナンス」を参照ください。
スポールゴムタイル・ファストラはP.82「メンテナンス」を参照ください。